

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

自然体験フォローキャンプ（生活自立支援キャンプ）

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

様々な体験をする機会が少ない環境で生活をしている子供たちに、豊かな自然環境の中での活動や体験を通して、自主性、達成感、自己肯定感の向上を図る機会とするとともに、青少年施設での生活を通して、生活リズムの改善、ルールやマナーの習得、仲間と一緒に過ごす中での協調性や相互理解を深める機会とし、更なる生活力の向上を図ることを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回 令和5年7月15日（土）～17日（月）

第2回 令和6年2月 3日（土）～ 4日（日）

(2) 参加者

第1回 社会福祉法人恵聖会 児童養護施設 玉島学園
27人（幼児2人、小学生6人、中学生4人、高校生6人、職員9人）

第2回 社会福祉法人恵聖会 児童養護施設 玉島学園
19人（小学生7人、中学生3人、高校生5人、職員4人）

(3) 講師

第2回 水野 恵子 氏（絵本専門士）
蒜山スキー学校

(4) 企画・運営のポイント

- ① 豊かな自然環境の中での活動ができるように、連携施設（玉島学園）の希望を可能な限り取り入れたプログラム作りを心がけた。
- ② 今後の利用に向けて、研修支援事業の活動プログラムを多く取り入れた。
- ③ より多くの子供たちに自然体験をしてもらうために夏と冬の2回を計画した。
- ④ 所内だけでなく所外の施設も利用することで、多様な体験活動ができるようにした。
- ⑤ 年上の子供が年下の子供の面倒をみる活動や責任をもって行う活動などを取り入れることで、自己肯定感を高められるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程 第1回

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	7/15 (土)											入所式	アイス ブレイク	夕食	入浴	遊びリン ピック	就寝 準備	就寝
2日目	7/16 (日)	就寝	起床 洗面	朝のつどい 朝食	準備	なぞとき ウォークラリー		昼食		七宝焼き		野外炊事 ツイストケーキ				入浴	就寝 準備	就寝
3日目	7/17 (月)	就寝	起床 洗面	朝のつどい 朝食	準備	点検	カッター活動		昼食	振り返り	退所式							

日程 第2回

2月4日(土)		2月5日(日)	
14:30	入所式・仲間づくり	6:30	起床・洗面・朝食
15:15	野外炊事	7:30	バス移動
18:30	入浴	9:00	準備
19:30	休憩	10:00	スキー教室
20:00	絵本の読み聞かせ	12:00	昼食・雪上体験
21:00	就寝準備	14:30	片付け
22:00	就寝	15:00	バス移動
		16:30	退所式

(2) 活動の状況



【第1回：アイスブレイク】



【第1回：遊びリンピック】



【第1回：なぞときウォークラリー】



【第1回：野外炊事】



【第1回：カッター活動】



【第2回：野外炊事】



【第2回：絵本の読み聞かせ】



【第2回：スキー教室】

4. 成果・課題

(1) 満足度

第1回 満足：64% やや満足：36%

第2回 満足：95% やや満足：5%

(2) 参加者の声

① 第1回

ア. 幼児・児童・生徒

a. みんなの見たことない表情を見ることができて、とてもうれしかった。

b. 最初は正直こんなに楽しいとは思っていなく行きたくないと思っていた。初めて国立吉備青少年自然の家にお泊りをしたら楽しかった。スタッフやボランティアの方がとても優しくとても楽しい2泊3日になった。

イ. 職員

a. 子どもたちが意欲的に取り組んで、楽しく活動できていた。年長児が年少児の世話をしてくれたので、本当に助かった。

b. 小さい子にも分かりやすく、1つのプログラムの時間もちょうどよい長さで、あきることなく楽しめた。

② 第2回

ア. 幼児・児童・生徒

a. 野外炊事はみんなで作ったという達成感があり、よりおいしく感じた。

b. 今回のキャンプを通して、「仲間の大切さ」や「協力の大切さ」などを多く学ばせてもらった。

イ. 職員

- a. 雪が積もっているか心配でしたが、雪遊びに行けて良かったです。スキーができない場合も2パターン考えてくださっており、どれも子供たちが楽しめそうだった。
- b. スキーに関して苦手な子も何度もトライしている姿が印象的で、職員さんやボランティアさんが付き添ってくださり、「できなかった」という思い出ではなく「楽しかった！」という思い出で帰れたのは、本当に良かったです。

(3) 成果

- ① 研修支援事業の活動プログラムを多く実施したため、活動内容や準備物等を見直すきっかけとなった。
- ② 子供たちにとって普段できないことをたくさん体験することができ、満足してもらうことができた。
- ③ 高校生が小学生の面倒を見るなど、子供たちの園では普段見られない姿を引き出すことができた。
- ④ 職員、法人ボランティアが参加者一人一人に積極的に声をかけたことで、参加者も安心した雰囲気でも過ごすことができた。

(4) 今後の課題

- ① 第2回はスキーを計画していたが、暖冬の影響でスキー場がオープンせず開催日ギリギリまで代替案を考えながら実施の判断に悩まされた。
- ② 今後の利用につなげていくために子どもゆめ基金を紹介していく。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克